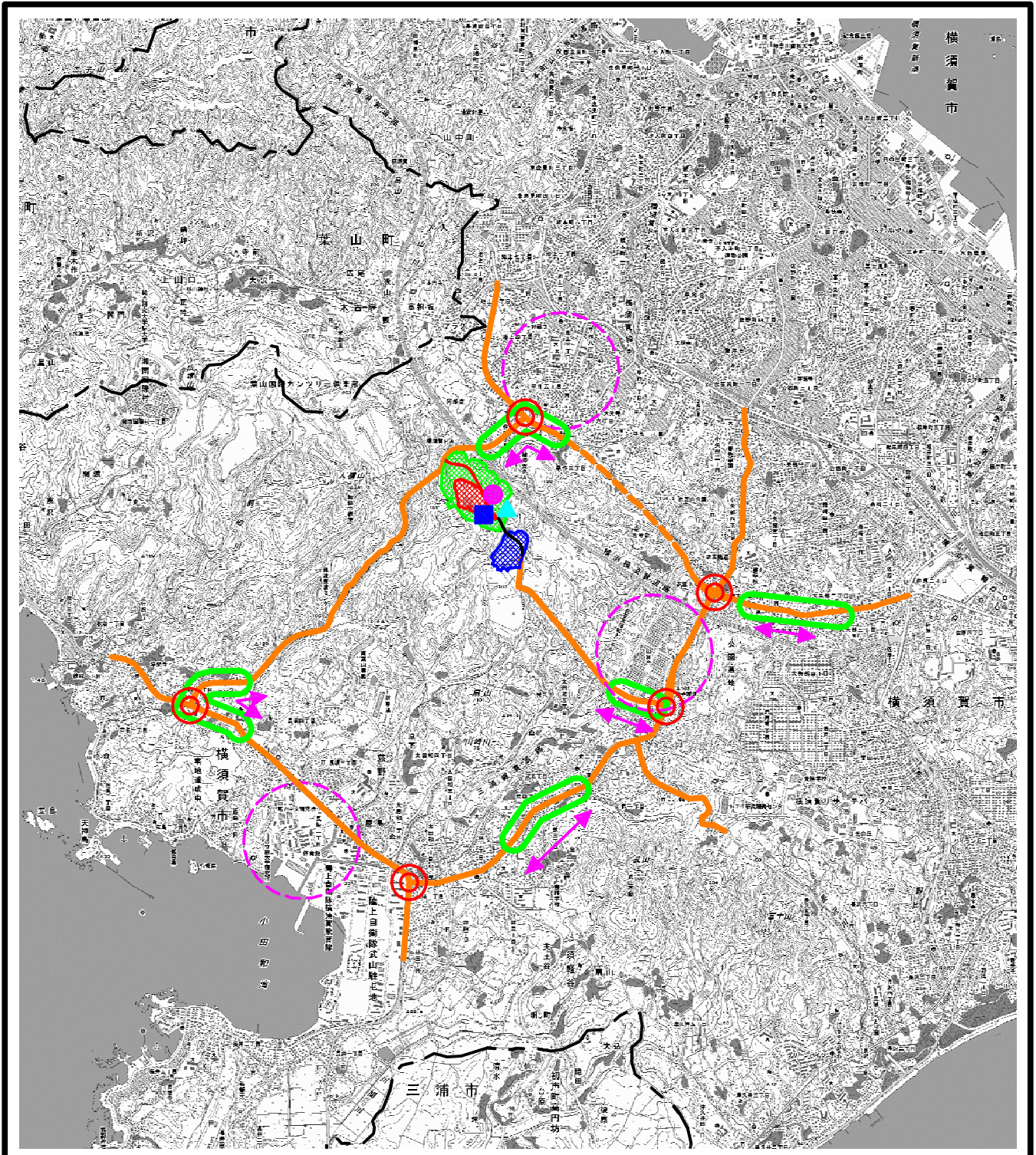


### 3 調査方法、調査時期等の調査計画その他の内容

選定した評価項目について、調査方法、調査時期等の調査計画を以下の表 4-3-1～表 4-3-36 に示す。

表 4-3-1 調査方法・調査時期等の調査計画等（大気汚染：調査）

調 査		調 査 の 方 法 等
調 査 事 項		
大気汚染の発生源の状況	既存資料調査	工場、事業場、廃棄物処理施設等の主要な固定発生源の分布状況、道路等の位置、規模、構造等を地形図、都市計画図、土地利用状況図等の既存資料により把握し、必要に応じて現地踏査により確認する。
主要な道路網の状況  ・自動車交通量 ・走行速度	現地調査	<調査地点> ・自動車交通量：事業関係車両主要走行ルート上の5交差点(図4-3-1参照) ・走行速度：事業関係車両主要走行ルート沿道の5地点(図4-3-1参照) <調査期間、回数> ・交通の状況を適切に把握できる平日の1日間(24時間)とする。 <調査方法> ・自動車交通量：カウンターにより計測調査する。 ・走行速度：ストップウォッチにより調査する。
大気汚染評価物質等の濃度の状況  [環境大気] ・二酸化硫黄 ・浮遊粒子状物質 ・窒素酸化物(二酸化窒素、一酸化窒素) ・塩化水素 ・ダイオキシン類 ・降下ばいじん  [道路沿道大気] ・浮遊粒子状物質 ・窒素酸化物(二酸化窒素、一酸化窒素) ・ベンゼン等(ベンゼン、トリクロロエチレン、テトラクロロエチレン、ジクロロメタン)	既存資料調査  現地調査	下記資料を調査し、大気汚染評価物質等の濃度の状況を把握する。 ・「かながわ環境白書(最新版)」神奈川県 ・「大気環境の状況について(最新版)」神奈川県 ・「よこすかの環境(最新版)」横須賀市 <調査地点> ・横須賀市役所測定局他(常時監視測定局、図4-3-2参照) <調査地点> ・環境大気：実施区域内1地点及び周辺3地点の計4地点(図4-3-1参照)うち、長坂地区においては、既存の大気汚染常時監視測定局(横須賀市西行政センター)で測定していない項目(塩化水素)についてのみ調査する。 また、降下ばいじんは実施区域内1地点とする。 ・道路沿道大気：事業関係車両主要走行ルートである5地点(図4-3-1参照) <調査期間、回数> ・環境大気：4季に各1週間の連続調査とする(降下ばいじんは1ヶ月/季)。 ・道路沿道大気：年間の大気状況を適切に把握し得る期間及び時期として、寒候期及び暖候期の2季に各1週間連続調査とする(ただし、ベンゼン等は各2日)。 <調査方法> ・二酸化硫黄：「大気汚染に係る環境基準について」(昭和48年環告第25号) ・浮遊粒子状物質：「大気汚染に係る環境基準について」(昭和48年環告第25号) ・窒素酸化物：「二酸化窒素に係る環境基準について」(昭和53年環告第38号) ・塩化水素：「大気汚染物質測定法指針」(昭和62年環境庁)に示されるガス状塩化物の測定方法に準じたイオンクロマト法 ・ダイオキシン類：「ダイオキシン類による大気汚染、水質汚濁及び土壌汚染に係る環境基準について」(平成11年環境省告示第68号) ・降下ばいじん：「環境測定分析法註解」(社)日本環境測定分析協会)デポジットゲージ法又はガスジャ法により水溶性、不溶性物質に区分して測定 ・ベンゼン等：「ベンゼン等による大気汚染に係る環境基準について」(平成13年環告第30号)
地形及び工作物の状況	既存資料調査	大気質の移流、拡散等に影響を及ぼす地形及び工作物の位置、規模等を地形図等の既存資料により把握し、必要に応じて現地踏査により確認する。
気象の状況  [地上気象] ・風向、風速 ・気温、湿度 ・日射量、放射収支量 [上層気象] ・気温 ・風向、風速	既存資料調査  現地調査	下記資料等を調査し、最新の1年間の状況を把握するとともに、当該年が気象的に異常でなかったかを確認する。 ・常時監視測定局の1時間値 <調査地点> ・横須賀市役所測定局他(常時監視測定局、図4-3-2参照) ・横浜地方気象台 <調査地点> ・地上気象：上記の大気汚染評価物質濃度の測定と同じ9地点(環境大気地点4地点、道路沿道大気地点5地点)(図4-3-1参照)ただし、実施区域内以外の地点は風向・風速のみの測定 ・上層気象：実施区域内の1地点 <調査期間、回数> ・地上気象：1年間連続(実施区域内)、大気汚染評価物質濃度の測定と同時期(実施区域内以外の8地点) ・上層気象：4季各1週間(1日あたり8回)の調査とする。 <調査方法> ・地上気象：「地上気象観測指針」に準拠した方法 ・上層気象：「高層気象観測指針」に準拠した方法
対象事業の計画の状況	既存資料調査	三種の対象事業における工事計画、事業計画等により、工事中の建設機械の種類、台数、施工方法、資材運搬車両等の種類、台数、運行経路、供用時の大気汚染評価物質の排出量等の計画、関係車両、土砂運搬車両、敷均し機械等の種類、台数等を把握する。



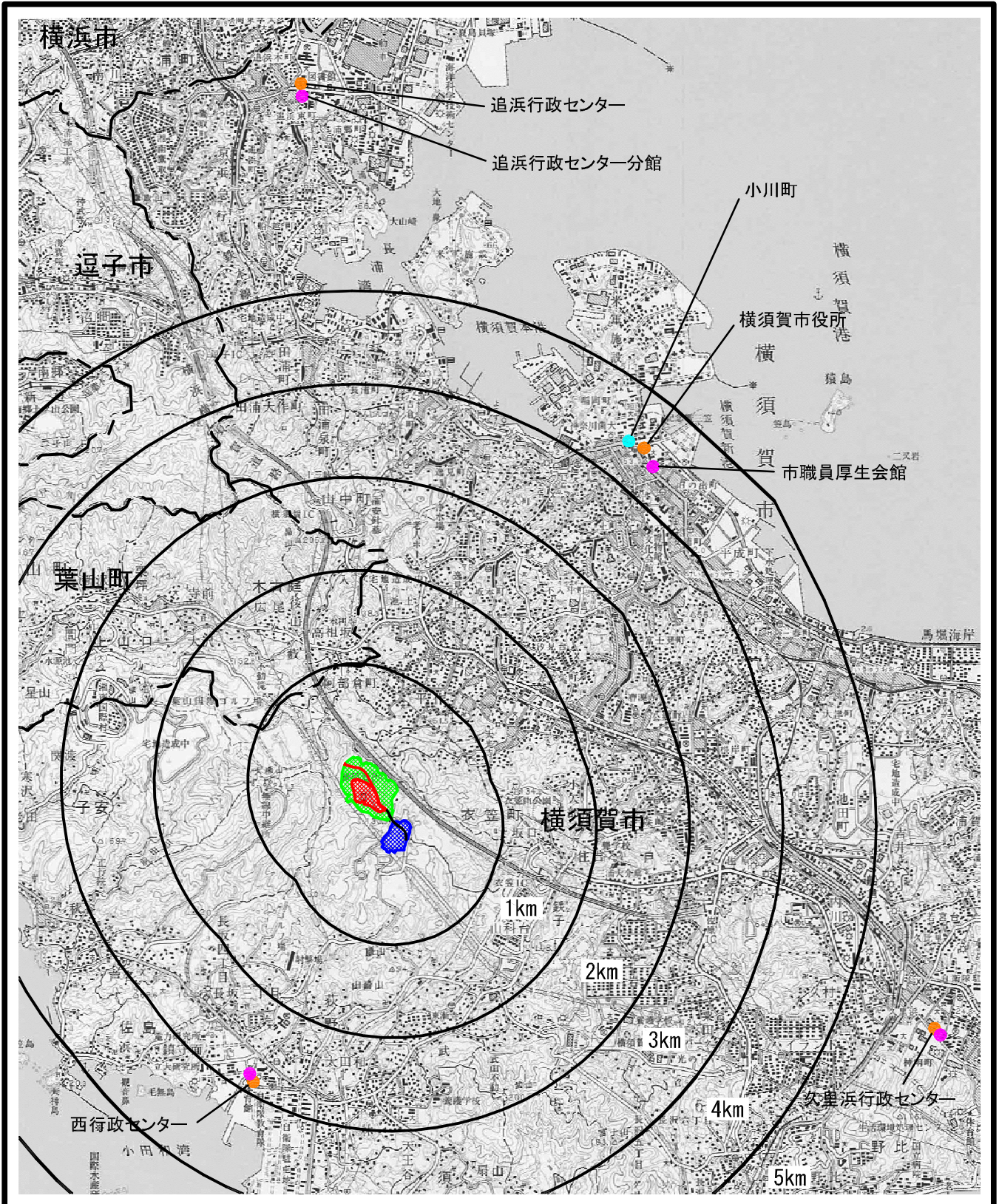
凡例

- |  |  |   |
|--|--|---|
| <p>■ (赤格子) : 廃棄物処理施設<br/>(宅地の造成を含む)</p> <p>■ (緑格子) : 宅地の造成<br/>(残置森林(最大範囲))</p> <p>■ (青格子) : 発生土処分場</p> <p>--- : 市町界</p> <p>● (紫) : 環境大気(実施区域内)<br/>調査地点</p> | <p>○ (紫) : 環境大気(周辺地域)<br/>及び地上気象調査地点</p> <p>■ (青) : 地上気象調査地点</p> <p>▲ (青) : 上層気象調査地点</p> <p>○ (赤) : 交通量調査地点</p> <p>○ (緑) : 沿道大気及び<br/>地上気象調査地点</p> <p>— (橙) : 関係車両主要<br/>走行ルート<br/>(--- は計画)</p> | <p>— (赤) : 新設搬入道路</p> <p>— (黒) : 既設改修道路</p> <p>↔ (紫) : 走行速度調査区間</p> |
|--|--|---|



注) 宅地の造成(残置森林(最大範囲))には、搬入道路の新設、既設道路の改修に伴い形成される法面等を含んでいる。

図4-3-1 大気汚染調査地点(現地調査)



凡例

- : 廃棄物処理施設 (宅地の造成を含む)
- : 宅地の造成 (残置森林(最大範囲))
- : 発生土処分場
- : 市町界
- : 新設搬入道路
- : 既設改修道路
- : 一般環境大気測定局
- : 自動車排出ガス測定局
- : ダイオキシン類測定地点

注) 宅地の造成(残置森林(最大範囲))には、搬入道路の新設、既設道路の改修に伴い形成される法面等を含んでいる。

出典：「横須賀市ホームページ  
よこすかの環境測定結果」  
2011年4月7日更新  
横須賀市環境政策部環境管理課

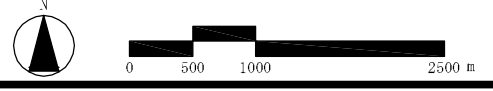


図4-3-2 大気汚染調査地点 (既存資料)

表 4-3-2(1/3) 調査方法・調査時期等の調査計画等（大気汚染：予測）

区分		予 測				
時期	環境影響要因	予測事項	予 測 の 手 法			
廃棄物処理施設の建設	搬入道路の新設及び既設道路の改修	1 建設工事	・粉じん	<予測時期> ・粉じんが最も発生しやすく、大気に及ぼす影響が最大となる時期とする。 <予測範囲> ・実施区域周辺地域とする。 <予測方法> ・風向・風速、地象調査結果(粒度分布)等を用いる理論的解析、類似事例、環境保全対策等の工事計画の内容に基づき予測する。		
		2 建設機械の稼働	・浮遊粒子状物質 ・二酸化窒素	<予測時期> ・建設機械の稼働による大気への影響が最大となる時期とする。 <予測範囲> ・実施区域周辺地域とする。 <予測方法> ・長期平均濃度：ブルーム・パフ式を用いた拡散シミュレーションにより年平均値を予測する。		
			・粉じん	<予測時期> ・粉じんが最も発生しやすく、大気に及ぼす影響が最大となる時期とする。 <予測範囲> ・実施区域周辺地域とする。 <予測方法> ・類似事例の引用または解析により、季節別降下ばいじん量を予測する。		
		3 資材運搬車両等の走行	・浮遊粒子状物質 ・二酸化窒素	<予測時期> ・資材運搬車両等の走行による大気への影響が最大となる時期とする。 <予測地点> ・車両の主要ルートとなる5地点とする。 <予測方法> ・長期平均濃度：JEA修正型線源拡散式モデルを用いた拡散シミュレーションにより年平均値を予測する。		
			・粉じん	<予測時期> ・粉じんが最も発生しやすく、大気に及ぼす影響が最大となる時期とする。 <予測範囲> ・実施区域周辺地域とする。 <予測方法> ・類似事例の引用または解析により、季節別降下ばいじん量を予測する。		
		工事の実施	5 建設工事	・粉じん	<予測時期> ・粉じんが最も発生しやすく、大気に及ぼす影響が最大となる時期とする。 <予測範囲> ・実施区域周辺地域とする。 <予測方法> ・風向・風速、地象調査結果(粒度分布)等を用いる理論的解析、類似事例、環境保全対策等の工事計画の内容に基づき予測する。	
			6 建設機械の稼働	・浮遊粒子状物質 ・二酸化窒素	<予測時期> ・建設機械の稼働による大気への影響が最大となる時期とする。 <予測範囲> ・実施区域周辺地域とする。 <予測方法> ・長期平均濃度：ブルーム・パフ式を用いた拡散シミュレーションにより年平均値を予測する。	
				・粉じん	<予測時期> ・粉じんが最も発生しやすく、大気に及ぼす影響が最大となる時期とする。 <予測範囲> ・実施区域周辺地域とする。 <予測方法> ・類似事例の引用または解析により、季節別降下ばいじん量を予測する。	
			7 資材運搬車両等の走行	・浮遊粒子状物質 ・二酸化窒素	<予測時期> ・資材運搬車両等の走行による大気への影響が最大となる時期とする。 <予測地点> ・車両の主要ルートとなる5地点とする。 <予測方法> ・長期平均濃度：JEA修正型線源拡散式モデルを用いた拡散シミュレーションにより年平均値を予測する。	
	・粉じん			<予測時期> ・粉じんが最も発生しやすく、大気に及ぼす影響が最大となる時期とする。 <予測範囲> ・実施区域周辺地域とする。 <予測方法> ・類似事例の引用または解析により、季節別降下ばいじん量を予測する。		

表 4-3-2(1/3) 調査方法・調査時期等の調査計画等（大気汚染：予測） つづき

		予 測		
区分	時期	環境影響要因	予測事項	予 測 の 手 法
廃棄物処理施設の建設	土地又は工作物の存在及び供用	8 廃棄物処理施設の稼働	<ul style="list-style-type: none"> <li>・二酸化硫黄</li> <li>・二酸化窒素</li> <li>・浮遊粒子状物質</li> <li>・塩化水素</li> <li>・ダイオキシン類</li> </ul>	<p>&lt;予測時期&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・施設の稼働が定常の状態となる時期とする。</li> </ul> <p>&lt;予測範囲&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実施区周辺とし、影響濃度が最大となる地点を含む範囲とする。</li> </ul> <p>&lt;予測方法&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・長期平均濃度：ブルーム・パフ式を用いた拡散シミュレーションにより年平均濃度を予測する。なお、この場合、予測範囲の地形の起伏に応じてブルームモデルの煙軸を修正する。予測項目は、二酸化硫黄、浮遊粒子状物質、二酸化窒素、ダイオキシン類とする。</li> <li>・短時間高濃度：ブルーム式による拡散シミュレーションにより高濃度となる1時間値(大気安定度不安定時、上層逆転時、接地逆転層崩壊時、ダウンウォッシュ時)を予測する。予測項目は、二酸化硫黄、浮遊粒子状物質、二酸化窒素及び塩化水素とする。</li> </ul>
		9 関係車両の走行	<ul style="list-style-type: none"> <li>・浮遊粒子状物質</li> <li>・二酸化窒素</li> </ul>	<p>&lt;予測時期&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・施設の稼働が定常の状態となる第1段階（既設道路の改修完了前）及び第2段階（既設道路の改修完了後）の2時期とする。</li> </ul> <p>&lt;予測地点&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・関係車両の主要ルートとなる5地点とする。</li> </ul> <p>&lt;予測方法&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・長期平均濃度：JEA修正型線煙源拡散式モデルを用いた拡散シミュレーションにより年平均値を予測する。</li> </ul>

表 4-3-2(2/3) 調査方法・調査時期等の調査計画等（大気汚染：予測）

予 測		予 測		予 測	
区分	時期	環境影響要因	予測事項	予 測 の 手 法	
発生土処分場の建設	工事の実施	11 建設工事	・粉じん	<予測時期> ・粉じんが最も発生しやすく、大気に及ぼす影響が最大となる時期とする。 <予測範囲> ・実施区域周辺地域とする。 <予測方法> ・風向・風速、地象調査結果(粒度分布)等を用いる理論的解析、類似事例、環境保全対策等の工事計画の内容に基づき予測する。	
			・浮遊粒子状物質 ・二酸化窒素	<予測時期> ・建設機械の稼働による大気への影響が最大となる時期とする。 <予測範囲> ・実施区域周辺地域とする。 <予測方法> ・長期平均濃度：ブルーム・パフ式を用いた拡散シミュレーションにより年平均値を予測する。	
		12 建設機械の稼働	・粉じん	<予測時期> ・粉じんが最も発生しやすく、大気に及ぼす影響が最大となる時期とする。 <予測範囲> ・実施区域周辺地域とする。 <予測方法> ・類似事例の引用または解析により、季節別降下ばいじん量を予測する。	
			・浮遊粒子状物質 ・二酸化窒素	<予測時期> ・資材運搬車両等の走行による大気への影響が最大となる時期とする。 <予測地点> ・車両の主要ルートとなる5地点とする。 <予測方法> ・長期平均濃度：JEA修正型線源拡散式モデルを用いた拡散シミュレーションにより年平均値を予測する。	
		13 資材運搬車両等の走行	・粉じん	<予測時期> ・粉じんが最も発生しやすく、大気に及ぼす影響が最大となる時期とする。 <予測範囲> ・実施区域周辺地域とする。 <予測方法> ・類似事例の引用または解析により、季節別降下ばいじん量を予測する。	
			・浮遊粒子状物質 ・二酸化窒素	<予測時期> ・敷均し機械等の稼働による大気への影響が最大となる時期とする。 <予測範囲> ・実施区域周辺地域とする。 <予測方法> ・長期平均濃度：ブルーム・パフ式を用いた拡散シミュレーションにより年平均値を予測する。	
	土地又は工作物の存在及び供用	14 敷均し機械等の稼働	・粉じん	<予測時期> ・粉じんが最も発生しやすく、大気に及ぼす影響が最大となる時期とする。 <予測範囲> ・実施区域周辺地域とする。 <予測方法> ・類似事例の引用または解析により、季節別降下ばいじん量を予測する。	
			・浮遊粒子状物質 ・二酸化窒素	<予測時期> ・土砂運搬車両の走行による大気への影響が最大となる時期とする。 <予測地点> ・車両の主要ルートとなる5地点とする。 <予測方法> ・長期平均濃度：JEA修正型線源拡散式モデルを用いた拡散シミュレーションにより年平均値を予測する。	
		15 土砂運搬車両の走行	・粉じん	<予測時期> ・粉じんが最も発生しやすく、大気に及ぼす影響が最大となる時期とする。 <予測範囲> ・実施区域周辺地域とする。 <予測方法> ・類似事例の引用または解析により、季節別降下ばいじん量を予測する。	
			・浮遊粒子状物質 ・二酸化窒素	<予測時期> ・粉じんが最も発生しやすく、大気に及ぼす影響が最大となる時期とする。 <予測範囲> ・実施区域周辺地域とする。 <予測方法> ・風向・風速、地象調査結果(粒度分布)等を用いる理論的解析、類似事例、環境保全対策等の工事計画の内容に基づき予測する。	
		16 発生土処分場の存在	・粉じん	<予測時期> ・粉じんが最も発生しやすく、大気に及ぼす影響が最大となる時期とする。 <予測範囲> ・実施区域周辺地域とする。 <予測方法> ・風向・風速、地象調査結果(粒度分布)等を用いる理論的解析、類似事例、環境保全対策等の工事計画の内容に基づき予測する。	
			・粉じん	<予測時期> ・粉じんが最も発生しやすく、大気に及ぼす影響が最大となる時期とする。 <予測範囲> ・実施区域周辺地域とする。 <予測方法> ・風向・風速、地象調査結果(粒度分布)等を用いる理論的解析、類似事例、環境保全対策等の工事計画の内容に基づき予測する。	

表 4-3-2(3/3) 調査方法・調査時期等の調査計画等（大気汚染：予測）

		予 測		
区分	時期	環境影響要因	予測事項	予 測 の 手 法
宅 地 の 造 成	工 事 の 実 施	17 造成工事	・粉じん	<予測時期> ・粉じんが最も発生しやすく、大気に及ぼす影響が最大となる時期とする。 <予測範囲> ・実施区域周辺地域とする。 <予測方法> ・風向・風速、地象調査結果(粒度分布)等を用いる理論的解析、類似事例、環境保全対策等の工事計画の内容に基づき予測する。
			・浮遊粒子状物質 ・二酸化窒素	<予測時期> ・建設機械の稼働による大気への影響が最大となる時期とする。 <予測範囲> ・実施区域周辺地域とする。 <予測方法> ・長期平均濃度：ブルーム・パフ式を用いた拡散シミュレーションにより年平均値を予測する。
		18 既存施設の解体	・粉じん	<予測時期> ・粉じんが最も発生しやすく、大気に及ぼす影響が最大となる時期とする。 <予測範囲> ・実施区域周辺地域とする。 <予測方法> ・類似事例の引用または解析により、季節別降下ばいじん量を予測する。
			・浮遊粒子状物質 ・二酸化窒素	<予測時期> ・建設機械の稼働による大気への影響が最大となる時期とする。 <予測範囲> ・実施区域周辺地域とする。 <予測方法> ・長期平均濃度：ブルーム・パフ式を用いた拡散シミュレーションにより年平均値を予測する。
		19 建設機械の稼働	・粉じん	<予測時期> ・粉じんが最も発生しやすく、大気に及ぼす影響が最大となる時期とする。 <予測範囲> ・実施区域周辺地域とする。 <予測方法> ・類似事例の引用または解析により、季節別降下ばいじん量を予測する。
			・浮遊粒子状物質 ・二酸化窒素	<予測時期> ・資材運搬車両等の走行による大気への影響が最大となる時期とする。 <予測地点> ・車両の主要ルートとなる5地点とする。 <予測方法> ・長期平均濃度：J E A 修正型線煙源拡散式モデルを用いた拡散シミュレーションにより年平均値を予測する。
		20 資材運搬車両等の走行	・粉じん	<予測時期> ・粉じんが最も発生しやすく、大気に及ぼす影響が最大となる時期とする。 <予測範囲> ・実施区域周辺地域とする。 <予測方法> ・類似事例の引用または解析により、季節別降下ばいじん量を予測する。

注：複合影響について

予測は、それぞれの対象事業において、時期、環境影響要因、予測事項ごとに実施するものであるが、工事工程、建設機械等の種類、稼働台数、資材運搬車両等の走行台数等から、三種の対象事業を通じて環境負荷が最大となる時期を設定し、必要な場合、その複合影響について予測する。なお、この場合の予測事項、予測範囲、予測方法は、それぞれの環境影響要因に準じるものとする。



(空白)